

# 山口県立下関西高等学校

## 学校概要

- 【学校教育目標】 校是「天下第一関」の下、高い知性・豊かな情操・強い意志・健やかな身体を育み、円満な人間性と社会性を備えた次代を担うにふさわしい人材の育成をめざす。
- 【設置学科】 普通科、探究科（人文社会科学科・自然科学科）



## 研究テーマ①

「高い知性」につながる「深い学び」を実現するため、様々な教科が連携して取り組んだカリキュラム・マネジメントの推進

## 開発したカリキュラム

ユニットカリキュラムとは、普段の授業において行う、異なる教科・科目の担当者によるチーム・ティーチングで、一般的にはクロスカリキュラムとよばれている。本校では、文系や理系の枠を超えた数多くの実践が行われており、それぞれの教科・科目の見方・考え方を働かせながら、生徒が深い学びを体験することができるよう工夫している。さらに、年間指導計画を作成し、図1のようにPDCAサイクルによる授業改善を進めるなど、カリキュラム・マネジメントに取り組んでいる。

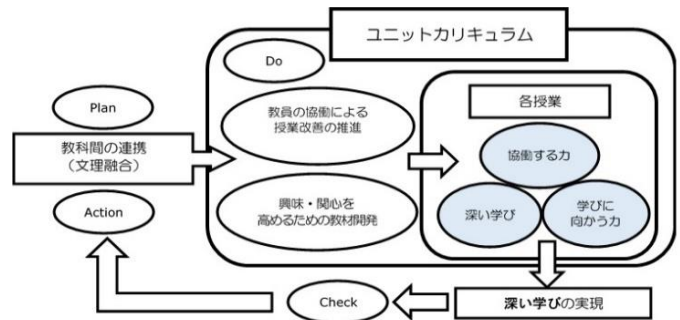


図1 ユニットカリキュラムにおける授業改善の推進

## ユニットカリキュラムの実践例

### ○ 数学（数学A）と理科（生物）が連携した実践 《学年》1年 《単元》 場合の数と確率

数学で学んだ知識を活用しながら、グループに分かれて「生物多様性」を統計的に評価（定量化）した。理科（生物）の教員が説明した身近な自然の事物・現象を、数学と関連付けながら、学びを深めることができた。

### ○ 理科（物理）と外国語（英語）が連携した実践 《学年》2年 《単元》 光の回折と干渉

物理で扱う現象を英語で説明する動画を視聴した。外国語（英語）を担当する教員が、英語ならではの表現方法を補いながら、現象の理解を深めた。

### ◆ 取組における生徒の変容等

表1に示したアンケート調査の結果によると、文系、理系コースに所属するいずれの生徒も、文系や理系の枠を超えた学びが必要であることを実感しているようである。また、教員もこうした教科・科目が連携した取組により、深い学びを実現することができると考えている。

## 「主体的・対話的で深い学び」の視点

様々な教科・科目の学びを生かしながら学習を進めることにより、主体的な学びに取り組む意欲が高まる。

生徒同士の対話をとおして、様々な教科の学びを関連付けることができる。

異なる教科・科目の見方・考え方を働かせて思考することにより、学びを深めることができる。

表1 アンケート調査の結果

質問の内容	肯定的な意見の割合(%)	
数学や理科を学ぶことにより、社会で必要とされる課題を解決する力が身に付くと思う。	2年(文系) 60	3年(文系) 77
科学に関わる課題を解決するためには、数学や理科に加え、国語や地理歴史、公民、英語での学びが役立つと思う。	2年(理系) 92	3年(理系) 91
ユニットカリキュラムによる授業は、教科等の枠を超えた深い学びを実現する有効な手段になっている。	教員 87	

## 実践研究の成果

- ◆ 生徒が多様な教科・科目の学びが生かされていることを実感するとともに、主体的に学びを深めるようになった。
- ◆ 教員間の連携が深まるとともに、カリキュラム・マネジメントを推進することができた。

## 研究テーマ②

「高い知性」や「強い意志」を身に付け、円満な人間性と社会性を備えた次代を担う人材の育成に向け、課題研究をとおして「主体的に学ぶ態度」や「表現力」の向上を図る。

### 開発したカリキュラム

《教科・科目》総合的な探究の時間 《学年》1年・2年 《内容》課題研究

本校の探究科の学校設定教科「探究」における実践の成果を生かし、普通科の生徒に、協働しながら**主体的に学ぶ態度**や**表現力**を育むため、「総合的な探究の時間」において、図2のような、2年間にわたる意図的・計画的なカリキュラムによる課題研究を実践した。

#### ◆ カリキュラムの特徴

課題研究をとおして身に付けさせたい資質や能力を、カリキュラム・マネジメントの視点から意図的・計画的に育むことができるようにするため、図2のように各年次の取組をまとめた。

1年次

自ら設定した課題を解決する課題研究の方法と、発表する技能を身に付ける。

2年次

様々な教科・科目の見方や考え方を働かせながら課題の発見に取り組む**リレー探究**により、同じ事物・現象であっても、見方や考え方によって異なる課題を発見できたり、これまでとは違った解決方法があることに気付いたりする。さらに発表の練習にも取り組み、表現力の向上をめざす。

#### 「主体的・対話的で深い学び」の視点

社会や自然の事物・現象を観察し、発見した課題をグループ活動をとおして解決する。

複数の教科・科目等が連携した取組により、多様な視点から主体的に課題を発見し、対話をとおして解決に取り組む。

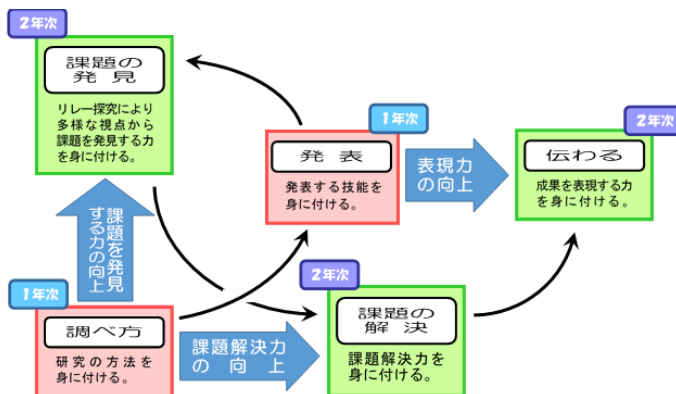


図2 課題研究のカリキュラム

#### ◆ 課題研究における生徒の変容等

実践を行った後に、生徒を対象としたアンケート調査を実施した。表2は、平成31年度に入学した1年次生の変容を2年間にわたってまとめたものである。いずれの質問も1年次よりも2年次の方が肯定的な意見の割合が大きくなっており、生徒は活動を通じて、「協働性」「課題解決力」「表現力」が身に付いたと感じているようである。さらに、限られた時間で計画的に活動することの大切さに気付くなど、次代を担う人材に求められる資質・能力も育まれた。

表2 アンケート調査の結果

質問の内容	肯定的な意見の割合(%)	
	1年次	2年次
研究班のメンバーと協力して、課題研究に取り組むことができた。	84	95
ポスター発表会では、課題研究の成果を分かりやすく表現することができた。	86	92
課題研究の時間で、研究をまとめることができた。	72	81

### 実践研究の成果

- ◆ 自ら調査・研究に取り組む課題研究により、主体的に学ぶ態度や表現力が育まれた。
- ◆ グループによる活動や、発表により、生徒相互の理解が深まるなど、円満な人間性や社会性を育むことができた。